

科学研究費補助金繰越事例集

事由記号	事由細目	頁
①キ	新たな知見の発見	1
①キ	新たな知見の発見	2
①キ	研究内容・方法の変更	3
①キ	怪我病気	4
①キ	研究協力者の確保	5
①キ	研究協力者の確保	6
①キ	海外研究協力者の事情	7
①キ	研究協力機関の事情	8
①キ	調査地の事情	9
①キ	学会の事情	10
①キ	マウス感染事故	11
①キ	機器の故障	12
③エ	晴天率の低下 4～6月	13
⑥ウ	魚	14
⑥ウ	試薬	15
⑦ア	_____	16
⑦イ	_____	17

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

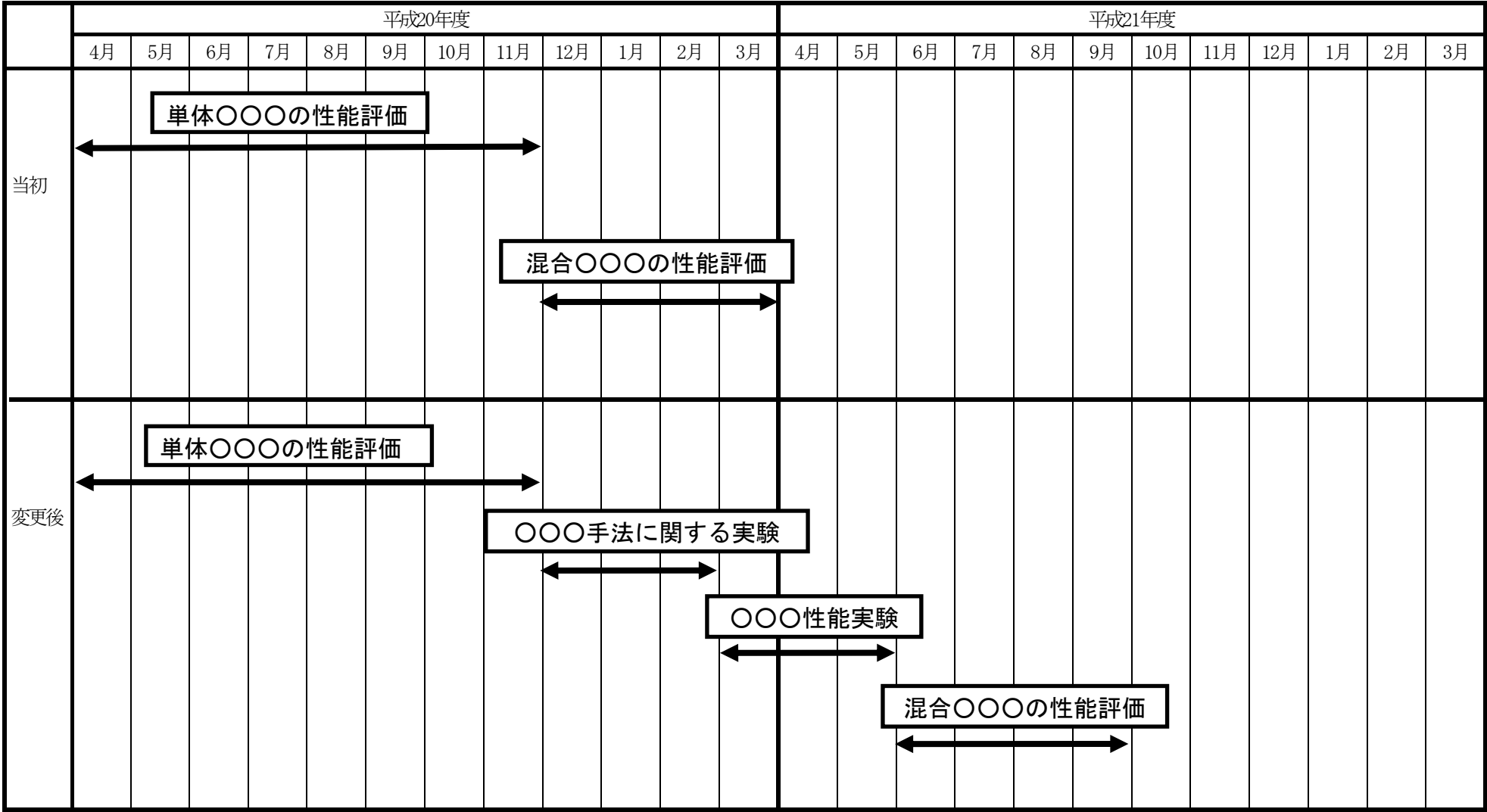
研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (新たな知見の発見)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○の○○○に関し、現在主流の○○○より環境に良いとされる○○○の性能評価を行い、実用化への検討を行う。	<当初計画> ○ 単体○○○の性能評価 (H20.4～H20.11) ○ 混合○○○の性能評価 (H20.12～H21.3) <変更後の計画> ○ 単体○○○の性能評価 (H20.4～H20.11) ○ ○○○手法に関する実験 (H20.12～H21.2) ○ ○○○性能実験 (H21.3～H21.5) ○ 混合○○○の性能評価 (H21.6～H21.9)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年11月までに単体○○○の性能評価を終え、平成20年12月より混合○○○の○○○評価を行う予定であった。	
				【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年11月、○○○を制御することにより、○○○せずとも○○○できるという興味深い知見を得た。 この知見は本研究の目的である○○○の高性能化を飛躍的に発展させる可能性を持つため、詳細に調べる必要がある。
				【③対処の方針】 *5～6行程度 新しい知見の更なる解明のため、○○○手法に関する実験に3ヶ月、○○○性能実験に3ヶ月が必要になった。このため、混合○○○の性能評価を年度内に終了できず、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、追加の実験に用いた経費については既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。
			補助事業の完了時期	平成20年9月30日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究



様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (新たな知見の発見)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○の測定データと大規模数値シミュレーションをもとに、○○○に関する○○○モデルを構築し、その妥当性を検証する。	<当初計画> ○ モデルの構築 (H20.4～H20.9) ○ 測定データとの比較 (H20.10～H21.3) <変更後の計画> ○ モデルの構築 (H20.4～H20.9) ○ ○○○の適用 (H20.10～H21.2) ○ 測定データとの比較 (H20.3～H21.8)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年9月までにモデル構築を終え、平成20年10月より、測定データとの比較検証を行う予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年9月にA大の研究グループが○○○によって○○○を計測する方法を発表した。 これを本研究に適用することでより広範な事例でのモデル検証を行うことができ、モデルの計算精度を飛躍的に高めることができる。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 手法の適用には5ヶ月を要するため、測定データとの比較を年度内に実施することができない。測定データとの比較は本研究モデルの検証において不可欠であり、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、映像解析の適用については既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。	
			補助事業の完了時期	平成20年8月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)

・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	モデル構築						測定データとの比較																	
変更後	モデル構築						○○○の適用						測定データとの比較											

様 式 C-2

繰 越 (翌 債) を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (研究内容・方法の変更)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○の○○○因子の遺伝子配列を明らかにし、臨床への応用を行う。解析によって遺伝子配列の同定を行い、また、マウスへのカプセル注入により既知の○○○因子との比較を行う。	<当初計画> ○ 予備実験 (H20.4～H20.8) ○ 遺伝子配列の同定 (H20.9～H20.11) ○ 動物実験 (H20.12～H21.3) ○ まとめ (H21.3) <変更後の計画> ○ 予備実験 (H20.4～H20.8) ○ 精製法の検討 (H20.9～H20.10) ○ 遺伝子配列の同定 (H20.11～H21.1) ○ 動物実験 (H21.2～H21.5) ○ まとめ (H21.5)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年8月までに予備実験を終え、平成20年9月から精製した○○○因子を用いて遺伝子配列の同定を行う予定であった。	
				【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成19年8月、当初予定していた精製方法では必要な○○○濃度が得られず、実験に用いることができない事が判明した。不十分な濃度では実験を行っても反応を観察することができず、同定した遺伝子の影響を実証できない。
				【③対処の方針】 *5～6行程度 急遽新たな精製方法を検討し、この方法によって必要濃度を達成することができたが、これに2ヶ月を要した。このため動物実験の終了が平成21年5月となる見込みである。動物実験は同定した遺伝子配列の生物への影響を実証するのに必要であり、研究をまとめ上げるのに不可欠である。このため、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、精製法の再検討に用いた経費については既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。
			補助事業の完了時期	平成21年5月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)

・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
当初	予備実験				遺伝子配列の同定				動物実験				まとめ													
変更後	予備実験				精製法の検討		遺伝子配列の同定				動物実験				まとめ											

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (怪我病気)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	様々な○○○指標について、その有効性、経済性等を○○○と比較する。 また、得られたデータを現場に反映させることで、有効かつ効率的な保健指導のありかたを模索する。	<当初計画> ○ 事前調査 (H20. 4～H20. 11) ○ 実地調査 (H20. 12～H21. 2) ○ 分析・まとめ (H21. 3) <変更後計画> ○ 事前調査 (H20. 4～H20. 11) ○ 実地調査 (H21. 4～H21. 6) ○ 分析・まとめ (H21. 7)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年11月まで研究代表者及び研究分担者がそれぞれ事前調査を行い、検討した結果をもとに平成20年12月から実地調査を行う予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年11月より研究代表者の体調が悪化し、12月に検査を受けたところ、○○○が判明し、急遽入院する必要が生じた。 実地調査は本研究の目的とする保健指導のあり方を考える上で、対象者の健康管理意識を知るために欠くことができない。また、以前の研究内容を細部まで踏まえて行うため、研究代表者無しには遂行できない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 研究代表者の退院まで実地調査を延期せざるを得なくなった。研究代表者は順調に回復し、平成21年4月より復帰する見込みである。実地調査はそれまでの調査結果に対して検証するのに不可欠なものであり、これを行うことなしに本研究をまとめ上げることが不可能であるため、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年7月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	資料収集及び分析																							
	実地調査																							
													解析・まとめ											
変更後	資料収集及び分析																							
													遅延期間											
													実地調査											
													解析・まとめ											

様 式 C-2

繰 越 (翌 債) を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (研究協力者の確保)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	人間活動が急激に増大した ○○○において○○○試料 を採取し、その化学合成を 明らかにする。また、○○ ○の○○○地域における○ ○○を解析する。これらの 研究を総合化することによ り、化学組成が○○○の特 性に及ぼす影響と○○○特 性を定量的に評価する。	<当初計画> ○ 調査準備 (H20.4～H20.8) ○ 無機○○○分析 (H20.9～H20.3) ○ 有機○○○分析 (H20.9～H20.3) ○ まとめ (H21.3) <変更後計画> ○ 調査準備 (H20.4～H20.8) ○ 無機○○○分析 (H20.9～H20.3) ○ 有機○○○分析 (H21.6～H21.12) ○ まとめ (H21.12)	【②当初の研究計画】 *2～3 行程度 ○○○試料の有機○○○分析について、○○○分析計の操作やデータ解析能力に長けている研究協力者に平成20年9月より参画していただくことで内諾を得ていた。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年7月、急遽民間企業への就職が決定したため本研究に参画できない旨の連絡を研究協力者より受けた。協力者無しに有機○○○分析を進めることはできず、試料の化学合成を明らかにできないため、研究をまとめ上げることができない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 直ちに代替する研究協力者を捜したが、実験およびデータ解析の双方に通じている研究協力者は見つけることが困難であった。平成20年12月に人材は見つかったものの、この研究者が参画できるのは平成21年6月からである。有機○○○分析は○○○の特性要因を探る上で欠くことができないが、これを年度内に実行できず、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年12月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	試料採取					無機〇〇〇分析																		
						有機〇〇〇分析																		
						まとめ																		
変更後	試料採取					無機〇〇〇分析																		
						遅延期間																		
													有機〇〇〇分析							まとめ				

様 式 C-2

繰 越 (翌 債) を 必 要 と す る 理 由 書

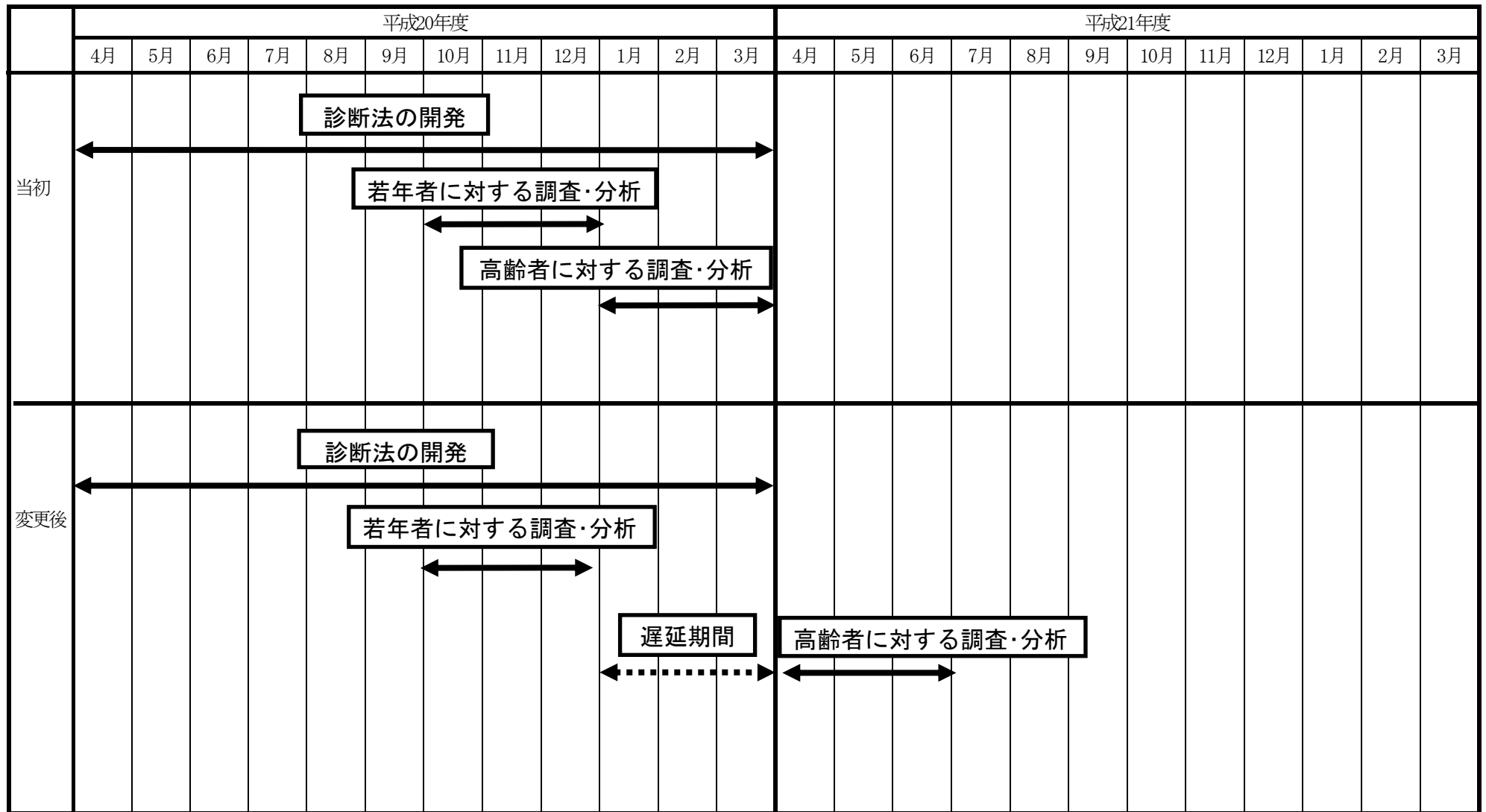
研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (研究協力者の確保)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	高齢者に多く見られる○○ ○異常のうち、○○○の原因 因や病態を疫学調査から明 らかにする。さらに、○○ ○の診断法や治療法につい ても開拓を行う。	<当初計画> ○ 診断法の開発 (H20.4～H21.3) ○ 若年者に対する調査 ・解析 (H20.10～H20.12) ○ 高齢者に対する調査 ・解析 (H21.1～H21.3) <変更後計画> ○ 診断法の開発 (H20.4～H21.3) ○ 若年者に対する調査 ・解析 (H20.10～H20.12) ○ 高齢者に対する調査 ・解析 (H21.4～H21.6)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 高齢者に対する質問調査及び検体採取について、平成21年1月より行うことで協 力機関の内諾を得ていた。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年12月、施設内でインフルエンザが流行したため、調査を延期したいと の連絡を受けた。 本研究においてはデータの信頼性確保のため○○○の患者を30名以上確保する必 要があるが、この人数を確保できる施設は少なく、以前から協力関係にあるこの施設 に代わるものはない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 高齢者に対する調査は本研究の目的である診断法や治療法を見つける上で、患者に 占める割合が多い高齢者に特有の現象を考慮するために不可欠であり、行うことなし に研究をまとめ上げることはできない。施設内でインフルエンザが収まった後の平成 21年4月に調査を延期せざるを得ず、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年6月30日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事業計画行程表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究



様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (海外研究協力者の事情)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○の○○○への参加における○○○の○○○等の問題を検討し、わが国の実情に即した立法提案を行う。○○○制度を中心に外国との比較法的分析を行う。	<当初計画> ○ 文献調査 (H20.4～H21.3) ○ A国現地調査 (H20.10～H20.11) ○ B国現地調査 (H21.1～H21.2) ○ まとめ (H21.3) <変更後計画> ○ 文献調査 (H20.4～H21.3) ○ A国現地調査 (H21.5～H21.6) ○ B国現地調査 (H21.1～2月) ○ まとめ (H21.7)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 A国の○○○法制について現地の研究者に協力いただき、平成20年10月より現地調査を行う予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年9月に研究協力者より、急遽○○のため現地調査の協力が困難になったとの連絡を受けた。 A国の法制度は日本のものと関係が深く、比較対象として欠くことができない。また、本研究テーマについては以前より当該研究協力者と共同研究を行っており、氏の協力無しに現地調査を行うことはできない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 A国の現地調査は国内で入手できない資料を用いるため、比較法分析において不可欠であり、これを行うことなしに本研究をまとめることができない。再度日程調節を行った結果、平成21年5月より現地調査を行うことで内諾を得ることができたが、年度内に実行できず、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年7月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資料の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

[illegible]

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (研究協力機関の事情)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○で建設中の○○○で 実施される実験において、 そのデータ解析の枠組みを 構築し、○○○により予言 されている○○○を発見す る。	<当初計画> ○ 解析手法の開発 (H20.4～H21.3) ○ 実験 (H20.10～H21.3) ○ 解析及びまとめ (H21.1～H21.3) <変更後計画> ○ 解析手法の開発 (H20.4～H21.3) ○ 実験 (H21.6～H21.11) ○ 解析及びまとめ (H21.9～H21.11)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年9月にA国に建設中の○○○が完成し、10月より本研究課題における ○○○実験を行う予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年7月、建設中に発覚した問題への対策により完成が遅れる旨の連絡が入 り、その後平成20年9月に完成の見込みが平成21年5月に延期になったとの連絡 を受けた。本施設は世界で唯一、本研究に必要な○○○の性能を出すことができ、代 替する施設は無い。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 実験は本研究で開発した手法について有効性を実証する為に不可欠であり、また、 ○○○の発見について必要なデータを取得する手段であるため、研究をまとめる上で 不可欠である。再調整の結果、実験を平成21年6月から実施することで内諾を得た が、当該年度内に実験を終了することが不可能であり、補助事業の年度内の完了が困 難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年11月30日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

[illegible]

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (調査地の事情)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	火山活動の活発なA島を○ ○○の見地から調査し、噴 火状態を評価し、噴火を引 き起こしたマグマの蓄積・ 移動の過程を明らかにする とともに、A島の火山活動 の位置づけを周辺諸島との 関連から明らかにする。	<当初計画> ○ 資料収集分析 (H20.4～H21.3) ○ 調査手法確立 (H20.4～H20.12) ○ 現地調査 (H21.1～H21.2) ○ まとめ (H21.3) <変更後計画> ○ 資料収集分析 (H20.4～H21.3) ○ 調査手法確立 (H20.4～H20.12) ○ 現地調査 (H21.6～H21.7) ○ まとめ (H21.8)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年1月からA島に入り、資料採取や計器設置などの調査を行う予定であつた。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成21年11月、A島の噴火活動が活発化したため、上陸が不可能になった。現地調査は本研究の目的であるA島の火山活動を解明することに不可欠である。 現地調査は本研究において、A島の○○○に関する試料及び1次情報を収集するため不可欠であり、行うことなしに本研究をまとめることができない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 平成21年1月に地震活動が収まり、調査地に入られる見通しを得ている。再調整の結果平成21年6月から現地調査を行う事が可能であるが、年度内に実施できず、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年8月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	資料収集分析 調査手法確立 現地調査 まとめ																							
変更後	資料収集分析 調査手法確立 遅延期間												現地調査 まとめ											

様 式 C-2

繰 越 (翌 債) を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事由	
			記号等 (注)	①キ (学会の事情)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○の1つである○○○ について、最適な○○○を 開発し、その安全性を示 す。	<当初計画> ○ ○○○の開発 (H20. 4～H20. 9) ○ 安全性の解析 (H20. 10～H21. 3) ○ 発表・まとめ (H21. 3) <変更後計画> ○ ○○○の開発 (H20. 4～H20. 9) ○ 安全性の解析 (H20. 10～H21. 3) ○ 発表・まとめ (H21. 4)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成21年3月に開かれるAシンポジウムに参加し、本研究の成果を発表する予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年12月、シンポジウムを平成21年4月へ延期するとの連絡を主催者から受けた。急遽代替のシンポジウムを探したものの、本研究分野が関係するシンポジウムは少なく、年度内に開催されるものは見つからなかった。 本研究の有効性を確認し、今後の発展の方向を検討するには、発表を通じて同分野の先駆的な研究者から意見を聞くことが不可欠であり、行うことなしに本研究をまとめることができない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 延期した日程でシンポジウムに参加し、その上で研究をまとめる必要が生じた。このため研究を年度内にまとめ上げることができず、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年4月30日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	〇〇〇の開発					安全性の解析																		
						発表・まとめ																		

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

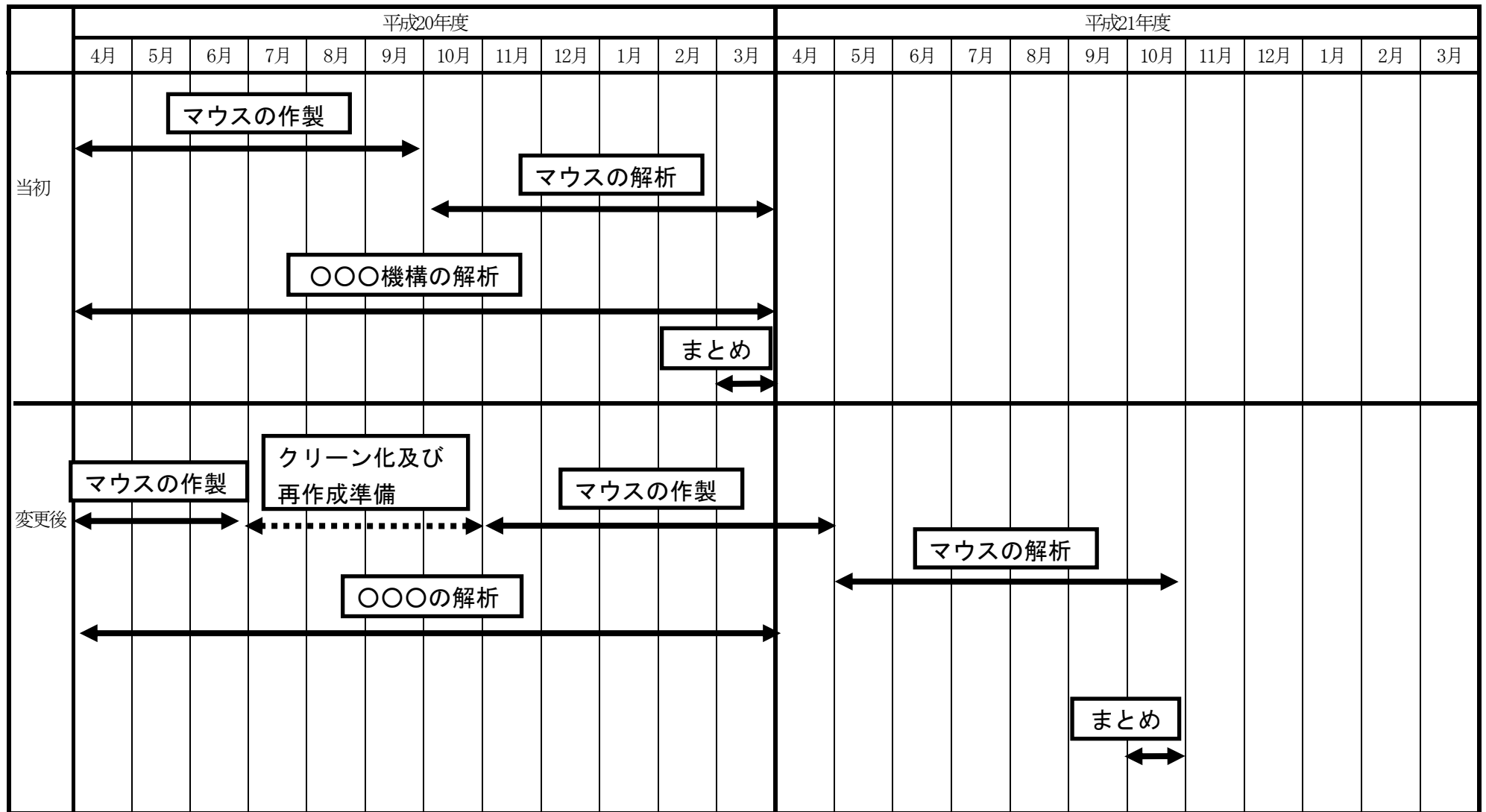
研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	①キ (マウス感染事故)
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○に特異的なB細胞○ ○○、また、微少環境にお ける○○○細胞の○○○機 構について解析する。	<当初計画> ○ マウスの作製 (H20. 4～H20. 9) ○ マウスの解析 (H20. 10～H21. 3) ○ ○○○機構の解析 (H20. 4～H21. 3) ○ まとめ (H21. 3) <変更後計画> ○ マウスの作製 (H20. 4～H20. 6, H20. 11～H21. 4) ○ マウスの解析 (H21. 5～H21. 10) ○ ○○○機構の解析 (H20. 4～H21. 3) ○ まとめ (H21. 10)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年9月までに特殊な遺伝子組み替えマウスを制作し、平成20年10月より○○○型B細胞○○○の発生箇所を特定する予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年7月、適切な管理下にあったにも関わらず、学内の遺伝子組み換えマウス実験施設において感染事故が発生した。施設全体のクリーン化のため、本研究で用いるマウスについても破棄し、施設のクリーン化が終わった後に冷凍胚からマウス作製をやり直す必要が生じた。 マウスの解析は本研究において個体全体への影響の広がり調べるために不可欠である。また、マウスは当研究で作る特殊なものであり、外部からの入手はできない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 平成20年11月の施設クリーン化終了後にマウスの再作成を行い、現在では新しいマウスが順調に繁殖しており、平成21年5月には解析に取りかかる見込みであるが、年度内に解析を行うことができず、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、繁殖に伴う経費については、既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。	
			補助事業の完了時期	平成21年10月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事業計画行程表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究



様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由			
			記号等 (注)	①キ (機器の故障)		
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	現有する○○○装置を高性能化し、○○○実験を行う。実験結果をもとに解析を行い、物理機構の解明をはかる。	<当初計画> ○ ○○○装置の高性能化 (H20.4～H20.11) ○ ○○○実験 (H20.12～H21.2) ○ まとめ (H21.3) <変更後計画> ○ ○○○装置の高性能化 (H20.4～H20.11) ○ 修理及び汚染除去 (H20.12～H21.3) ○ ○○○実験 (H21.4～H21.6) ○ まとめ (H21.7)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年11月までに○○○装置を高性能化し、その後○○○実験を行う予定であった。			
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年11月、○○○強度を上げる実験で○○○が損傷を受けた。原因を調べた結果、○○○にある極微量の油が○○○を汚染したことが判明した。○○○は以前から用いていたものであるが、これまでの使用では問題が無く、予防は困難であった。 装置を修理し、また汚染に対する対応を取ることなしに実験を行うことができず、本研究をまとめることはできない。			
			【③対処の方針】 *5～6行程度 直ちに修理及び油の除去作業を行ったが、これに4ヶ月を要したため○○○実験を年度内に行うことができなかった。○○○実験は物理機構を解明するためのデータを入手するのに必要であり、行うことなしに研究をまとめる事が不可能であるため、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、修理および油の除去に伴う経費については、既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。			
			補助事業の完了時期	平成21年7月31日		

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	○○○装置の高性能化																							
	○○○実験																							
変更後	○○○装置の高性能化																							
	修理及び汚染除去												○○○実験											
													まとめ											

様 式 C-2

繰 越 (翌 債) を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事由	
			記号等 (注)	③ア (豪雨 9月～11月)
研究機関名 文科大学 課題番号 11111111 研究課題名 〇〇〇の研究	A国における野生動物の狩猟及び利用の現状について調査し、野生動物保護と現地住民の生活文化の維持の両立を目指す。	<当初計画> ○ 文献調査 (H20.4～H21.3) ○ 現地調査 (H20.1～H21.2) ○ まとめ (H21.2～H21.3) <変更後計画> ○ 文献調査 (H20.4～H21.3) ○ 現地調査 (H21.6～H21.7) ○ まとめ (現地調査) (H21.7～H21.8)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成21年1月よりA国の現地調査を行い、文献では得ることのできない1次情報を収集する予定だった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年9月から11月にかけて、例年に無い大規模な豪雨災害が起きた。調査地は首都から車で3日かかる奥地であるが、橋が流されたため車で行くことができなくなってしまった。 現地調査は本研究において野生動物の狩猟および利用の状況に関する1次データを主集するのに不可欠であり、行うことなしに本研究をまとめることができない。また、安全性、運搬可能な機材の制限、日数の問題から船を用いて調査地に入ることは困難である。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 橋の修理が終わる平成21年6月まで待ち、現地調査およびまとめを延期して行う必要が生じた。このため、補助事業の年度内の完了が困難となった。	
			補助事業の完了時期	平成21年8月31日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)

・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	文献調査																							
変更後	文献調査																							

様 式 C-2

繰 越 (翌 債) を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由			
			記号等 (注)	⑥ウ (魚)		
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○の○○○遺伝子を同定するため、多個体の魚を用いて遺伝的解析を行い、○○○遺伝子を選抜する。次に、候補遺伝子の発現および機能解析を通じて○○○遺伝子を明らかにする。	<当初計画> ○ 魚の飼育解析 (H20.4～H20.12) ○ ○○○遺伝子を選抜 (H20.9～H21.3) <変更後計画> ○ 魚の飼育解析 (600体) (H20.4～H20.10) ○ 魚の飼育解析 (400体) (H21.4～H21.10) ○ ○○○遺伝子を選抜 (H20.9～H21.3, H21.9～H21.12)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 1 0 0 0 体の魚を飼育して、成体の遺伝学的解析を行い、この結果をもとに○○○遺伝子を選抜を行う予定であった。			
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 飼育中の平成20年8月より、管理は適切に行われていたにも関わらず、病気の流行が原因と見られる斃死が起こり、最終的に解析可能な個体が600体しかないことが平成20年9月に判明した。 データの信頼性の確保の 위해서는 1 0 0 0 体のサンプルが必要であるが、産卵期を過ぎた後に残り400体を急には入手することは不可能である。また、飼育環境の確保や生命倫理の観点から、あらかじめ必要数以上に個体を飼育する事には限界がある。			
			【③対処の方針】 *5～6行程度 残り400体の解析のためには平成21年3月～4月の産卵期を待ち、成体に飼育した上で解析を行う必要があるため、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、追加の個体入手・飼育に伴う経費については、既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。			
			補助事業の完了時期	平成21年12月31日		

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	魚の飼育解析																							
	〇〇〇遺伝子の選抜																							
変更後	魚の飼育解析 (600体)												魚の飼育解析 (400体)											
	〇〇〇遺伝子の選抜												〇〇〇遺伝子の選抜											

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等（注）	③エ（試薬）
研究機関名 文科大学 課題番号 11111111 研究課題名 ○○○の研究	○○○の○○○と行動の発 現に関し、○○○がどのよ うに関与するか調べ、行動 変化の全体像を明らかにす る。	<当初計画> ○ 妊娠ザルの血液分析 (H20. 4～H20. 9) ○ ○○○の組織学的解 析 (H20. 10～H21. 3) ○ ○○○の測定解析 (H20. 12～H21. 3) <変更後計画> ○ 妊娠ザルの血液分析 (H20. 4～H20. 9) ○ ○○○の組織学的解 析 (H20. 10～H20. 3) ○ 代替測定法の開発 (H20. 12～H21. 4) ○ ○○○の測定解析 (H21. 5～H21. 8)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年12月より○○○の測定解析を行い、○○○の○○○と行動の発現への 影響を調べる予定でいた。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年12月、測定解析に必要なA社の試薬が販売中止となった。この試薬は A社の装置と組み合わせて使うもので他社からは入手できず、また化学的安定性が低 いことから、あらかじめ確保しておく事はできない。 ○○○の測定解析は本研究において化学的視点からの理解を得るのに必要であり、 これを行うことなしに本研究をまとめ上げることはできない。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 代替測定法の開発を平成20年12月より開始した。平成21年4月に代替測定法 を確立し、平成21年5月には測定解析を開始できる見込みであるが、年度内には測 定解析を終了できず、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、代替測定法開発に伴う経費については、既に交付を受けている補助金で対応 が可能であり、追加の予算措置は不要である。	
			補助事業の完了時期	平成21年8月31日

（注）記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事業計画行程表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	妊娠ザルの血液分析					○○○の組織学的解析																		
変更後	妊娠ザルの血液分析					○○○の組織学的解析																		

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由			
			記号等 (注)	⑦ア ()		
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	高齢者を対象に○○○能力と、○○○機能、○○○機能との関連を分析し、○○○能力の低下がどの程度高齢者の生活能力に影響を及ぼすか調査する。 また、高齢者リハビリテーションのための○○○トレーニングプログラムの開発を行う。	<当初計画> ○ 事前調査 (H20.4～H20.8) ○ 測定 (H20.9～H20.11) ○ プログラム開発 (H20.12～H21.3) <変更後計画> ○ 事前調査 (H20.4～H20.8) ○ 測定法の検証 (H20.9～H20.12) ○ 測定 (H21.1～H21.3) ○ プログラム開発 (H21.4～H21.7)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成20年8月までに事前調査を終え、平成20年9月から高齢者を対象にした○○○能力及び○○○機能、○○○機能の測定を行う予定であった。			
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 平成20年8月に事前調査を分析した結果、計画していたA測定項目だけでは○○○能力と○○○機能の関連を解析することが困難だと判明した。 ○○○能力と○○○機能の関連を解析することは本研究の目的である○○○能力のトレーニングプログラム開発に必要不可欠である。			
			【③対処の方針】 *5～6行程度 A測定にB測定を組み合わせることで解決を見込んだが、実施の前に予備調査を行って、必要なデータが得られるか検証する必要が生じた。測定法の検証に4ヶ月を要したため、トレーニングプログラムの開発を年度内に実施できなくなった。このため、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、測定法の検証に伴う経費については、既に交付を受けている補助金で対応が可能であり、追加の予算措置は不要である。			
			補助事業の完了時期	平成21年7月31日		

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)
 ・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	事前調査					測定			プログラム開発															
変更後	事前調査					測定法の検証					測定		プログラム開発											

様 式 C-2

繰 越（翌 債）を 必 要 と す る 理 由 書

研究課題	事業概要	(当初計画) 変更後の計画	事 由	
			記号等 (注)	⑦イ ()
研究機関名 文科大学 課題番号 1 1 1 1 1 1 1 1 研究課題名 ○○○の研究	○○○を用いることで、人間型ロボットの○○○の制御高速化を行い、○○○を目指す。	<当初計画> ○ ○○○の解析 (H20. 4～H20. 7) ○ 制御の高速化 (H20. 8～H20. 11) ○ 評価・まとめ (H20. 12～H21. 3) <変更後計画> ○ ○○○の解析 (H20. 4～H20. 7) ○ 追加解析 (H20. 8～H20. 10) ○ 制御の高速化 (H20. 11～H21. 2) ○ 評価・まとめ (H21. 3～H21. 6)	【①当初の研究計画】 *2～3 行程度 平成19年7月までに○○○の解析を終え、8月から制御の高速化を行って評価及びまとめを行う予定であった。	
			【②発生した出来事とその影響】 *5～6 行程度 ○○○の解析を行った結果、対象とする○○○の○○○が予想以上に大きく、予定していた手法では制御不可能であることが判明した。 ○○○を分割して高速化を行い、それぞれに対応する○○○を切り替えることで解決を試みたが、分割の方法次第で動作速度が大きく左右されるため、適切に選ぶ必要がある。	
			【③対処の方針】 *5～6行程度 ○○○の解析を追加して行い、この結果を基に分割法を決定した上で、制御の高速化を行う必要が生じた。この追加解析に3ヶ月を要し、評価及びまとめを行うことができなかったため、補助事業の年度内の完了が困難となった。 なお、追加の解析に要する費用は既に交付を受けている補助金で対応可能であり、追加の予算措置は不要である。	
			補助事業の完了時期	平成21年6月30日

(注) 記号等は次から選択 ・計画に関する諸条件…①キ(具体的な内容) ・気象の関係…③ア(豪雨 ◆月), ③イ(豪雪 ◆月), ③ウ(波浪 ◆月), ③エ(その他 ◆月)

・資材の入手難…⑥ウ(具体的な内容) ・研究に際しての事前調査…⑦ア ・研究方式の決定の困難…⑦イ

事 業 計 画 行 程 表

課題番号 11111111

研究課題名 ○○○の研究

	平成20年度												平成21年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初	多自由度運動の分析 ←→				制御の高速化 ←→				評価・まとめ ←→															
変更後	多自由度運動の解析 ←→				追加解析 ←→				制御の高速化 ←→				評価・まとめ ←→											